

# 講演

## 衛生と平和

会場 鉄門記念講堂  
日時 2023年3月15日(水)  
17時～19時

東京大学大学院医学系研究科教授神馬征峰先生は、このたび2023年3月末日をもちまして定年退任されることになりました。

先生は1985年に浜松医科大学医学部医学科を卒業され、飛騨高山赤十字病院にて臨床医として勤務されたのち、東京とボストンにて公衆「衛生」を学びました。衛生とは「生命・生活・生産を衛る」という意味であり（丸山博著作集より）、その学びを世界で実践すべく、1994年から7年間にわたりパレスチナ（WHO）とネパール（JICA/日本医師会）で公衆「衛生」活動を実践されました。ネパール赴任中は各地でマオイストによる破壊運動が激化し、戒厳令がくりかえしだされる中、活動されました。2001年には再びボストンへ。2度にわたるボストン滞在時期はいずれも湾岸戦争が起こった時期であり、戦争を身近に感じられた滞在でした。これらの経験から、「衛生」の基盤として「平和」がいかに重要であるか、また「衛生」のための研究や実践活動がいかに平和構築にとって重要であるかを学びとられました。

2002年からは本学の国際地域保健学教室講師として帰国し、2006年に同教室教授に就任されました。研究分野はヘルスプロモーション、人権など幅広く、研究と実践の橋渡しをする活動に取り組まれてきました。この間、世界ヘルスプロモーション・健康教育連合副会長、アジア太平洋公衆衛生学術連合会長、日本国際保健医療学会理事長、日本健康教育学会理事長なども歴任されています。国際地域保健学教室では、「実践活動がわかる研究者」と「研究のわかる実践者」の人材育成に尽力されてきました。つきましては、最終講義として「衛生と平和」について語っていただきます。皆様のご臨席を賜りますようお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、祝花等につきましては、先生のご意向によりお気遣いに感謝しつつも謹んで辞退させていただきます。

令和5年1月

一般財団法人東京医学会